

経営比較分析表（令和元年度決算）

山形県山形市 市立病院済生館

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	ド透未訓ガ	救臨が災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
244,998	41,950	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
528	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	528
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
528	-	528

グラフ凡例		
■	当該病院値（当該値）	
—	類似病院平均値（平均値）	
【	令和元年度全国平均	

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域の基幹病院として、全体的に急性期を担い、一部疾患によっては高度急性期を担っている。
 加えて、公立病院の責務として救急搬送受入要請を「断らない」ことを大原則として、地域の救急医療に貢献していく。
 地域医療支援病院などの各種指定に基づき、『安全で安心できる質の高い医療の提供』『健全経営』を目指します。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は小幅ながら赤字となり、②医療収支比率も前年度から0.8ポイント悪化している。
 ④病床利用率は前年並みとなったものの、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益が増加している。
 ⑦職員給与費対医療収益比率は、「類似病院平均」に比べて高く、経営課題の一つとなっている。
 引き続き『質の高い医療の提供』という役割を果たすべく経営改善・努力を行っていく。

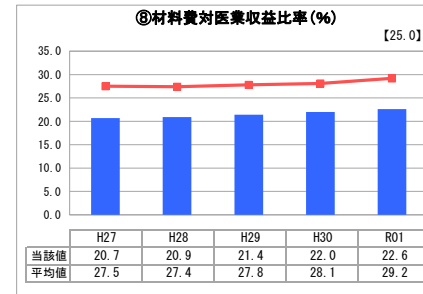
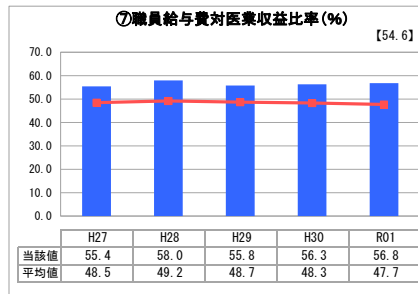
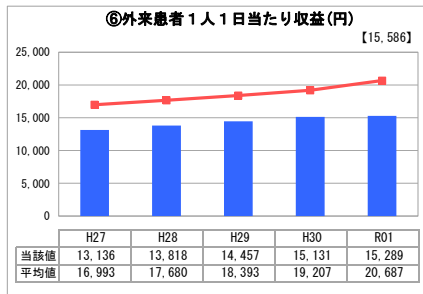
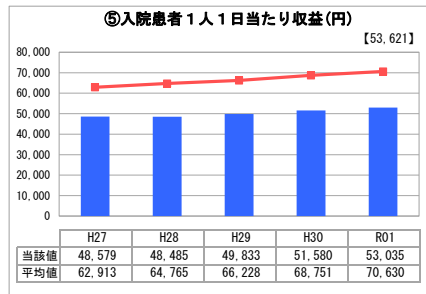
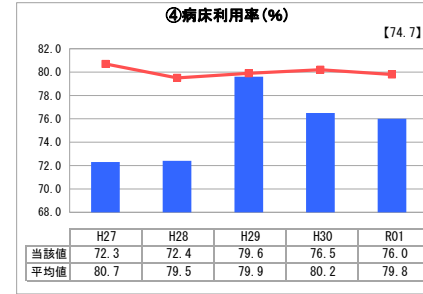
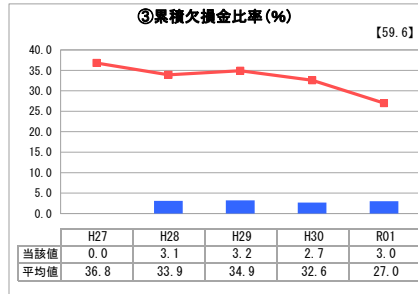
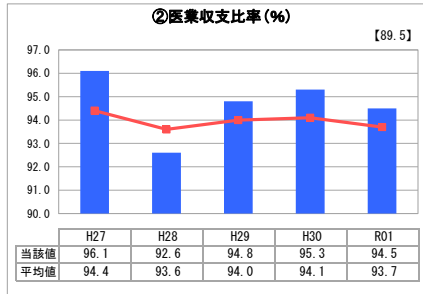
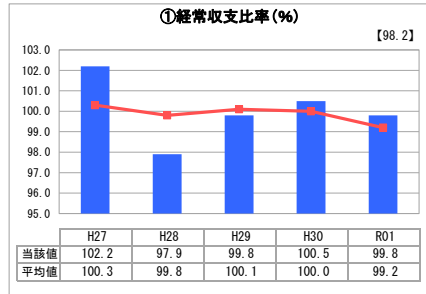
2. 老朽化の状況について

病院建物については、築年数が25年を超えており、①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率のいずれも「類似病院平均」を上回っている状況。
 早急な新築移転・増改築が必要な状況にはないが、将来を見据えた施設整備計画の検討、医療機器等の適切な更新を行っていく。

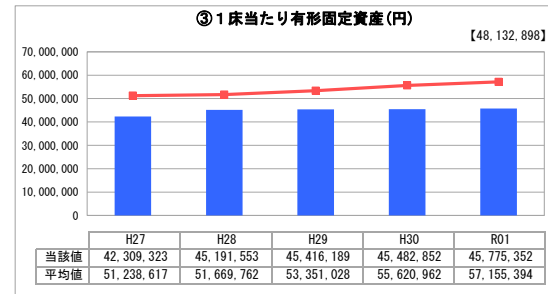
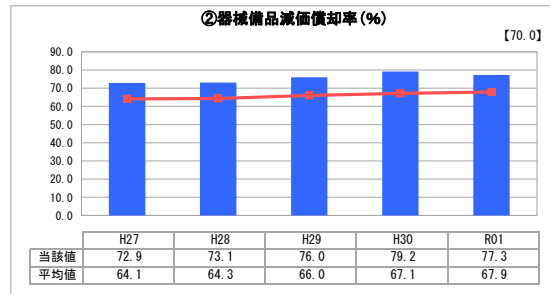
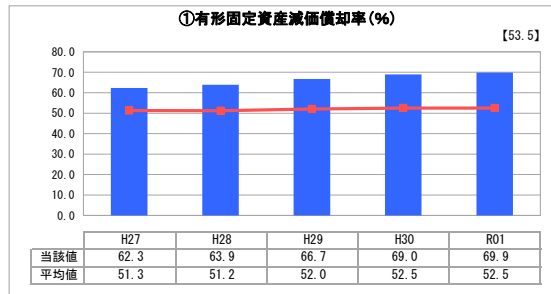
全体総括

平成29年1月に山形県の地域医療構想に沿って病床数を削減するなどの経営の効率化をすすめてきたが、令和元年度は小幅ながら経常収支が赤字となった。
 病床利用率が地方の人口減少の影響などで伸び悩む一方で、入院患者、外来患者1人1日当たり収益は増加を続けており、当院の掲げる『質の高い医療の提供』が徐々にではあるが結果として現れてきている。
 今後も地域の診療所との連携を深め、経営効率化をすすめて、『安全で安心できる質の高い医療の提供』『健全経営』を図っていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。